

争した。しかし、2つの路線の争いは停止しなかった。張聞天、王明の誤った路線を
 争った。抗日戦の勝利の後、中ソのフルニツコフ劉少奇は最大の社会気狂であった。
 「銃砲から政权が生まれる」「人民の軍隊から解放は人民の利益ではない」——しかし劉は
 国民党に武器と渡さうとしたことがあり、そのころ蔣は全ソ内に反共の攻撃を
 準備はじめていた。1949年2月に民主革命の偉大な勝利を得た。
 全ソが解放されたから、毛は我々を指導し、現在も革命を進めようとする。
 階級斗争はいつまで止まらない。たまたま資本主義復活の道がある。
 劉はフルニツコフの代表人であり、解放以来いつも毛に反抗し、反動路線を進めようとした。
 1957年のプロ文革は、この2つの路線の連続でもあり、また、
 党内に2つの路線が存在するとは、1年おきの斗争を全うし、人民の心中深くは
 いって、革命の斗争の中で、毛の教義を守り限り革命を進める。
 このころ毛がマレーシアと豊かに発展させたのは、必ず「銃砲から政权は
 生まれる」革命の實踐の中をくりあげ、「革命は農村から都市へ」
 山西省のゴイキにソビエト政府を樹立していた。蔣は反革命を企てたが、いつも
 失敗した。「ゲリラ戦」——人民戦争をうまく適用した。
 党中央は毛の路線を排して、毛は当時直接軍事指導をして、農村が
 農村が第4回目の包圍攻撃をかけた際、反撃の成功を指導し、勝利した。
 勝利したのだから（いつも）誤った路線は、都市奪還を主張し、
 「ゲリラ戦」——人民戦争を軽く見ていた。第5回目の包圍に失敗した。
 この頃日本帝国主义は華北に侵略し、中ソ人民に生か死かさせた。北上して
 抗日を行うよう指示した。蔣は毛が抗日戦にあって強大になるのを惧れていた。
 蔣はいつも日帝主義に投降主義をとりつけた。
 第5回目の反撃失敗後、党中央は北上して抗日戦に向うことを決定した。蔣はこれに
 妨害して、廻り路を、25,000里の長征にもなった。
 長征の当初左翼路線は逃走主義になり、自信を失った。この緊急力力Xのとき、
 党中央大会が開かれ、毛の主張が通り、この誤りを克服された。
 終始一貫して革命的樂觀主義であり、それは詩「長征」に表われている。
 労働赤軍は300,000人だったが、30,000に減った。長征の途次、通ったところは華

命の種をまいていった。労働赤軍だけが正しい解放をもたらしたものである。
 毛沢東選集第4巻、最初のオチ劉に対する批判がある。
 周恩来 -- 1925年10月から1927年、広州の軍官学校の政治主任となり、
 1931年北伐地区に行き、そのころは「毛と毛と」
 林彪 1924年革命に参加した。南昌の蜂起にも参加した。
 1928年軍団を率いて井冈山の頂から毛と一緒
 長征のときは林彪が、その主力部隊を指揮した。
 抗日軍政大学校長を兼任していた。
 1937年始め、平型関の戦役（板垣大將）を勝利した。
 1945年、東北へ向う解放を指導した。

（人民外交学会上海分会 黄祥梅、李文魁の証）

（上海市の概況）

人口 1000,000人（都市部 600万、郊外に300万） 10区、10県
 都市部構成、産業労働者200万、学生280万
 総合的工業都市 冶金、機械、十器、化学、轻工、紡績、電力
 重工業は解放前 13%
 後 53% におよぶようになった
 解放前は消費都市で、せいぜい修理工業程度。

学校

大学 24 (50,000人) 中学 500 (700,000) 小学校 5,000 (2,000,000)
 ほかの半工半学、夜学などの各種学校もある。

文芸

映画館 解放前 30館
 後 500館

劇団は文革前 170団（帝王将相、才子佳人のものが多かった）

22日

医療施設

解放前 300 軒

後 2,900 (病院 140 ほか診療所など)

病院が割に多い。これは農村に目を向けた。今では高血圧症などに力を入れている。今は一般病も増えた。下層の農村に医療工作隊を派遣するようになった。—— いろいろ下放運動、思想改造の意味
1930~49 に流行したコレラも流行した。吸血虫病も多。

体育

解放前はほとんどなかった。今は各工場学校には全部あり。

住宅

解放後 840 万 m² の土地に 100 万人の住宅も建設した。—— 労働者新村 (50,000 軒)

市民の平均賃金 70 円

解放前はイギリス、ドイツの植民地。封建主義のラジカス。税関は全部帝国主義の手に落ちた。公共事業の 70~80% も帝国主義者の所有 (交通機関、ガス、電気、水道など)。

(文革のころ)

解放後から上海市市書記 (市長) 柯慶施の正しい指導が与えられた。1965 年ころに、そのころの上海路線の陳丕顯 (市書記)、曹荻秋 (市長) がでて、毛路線に反対してきた。—— 工業の面では 70% 余を自力、至信主義に反対して修正主義を主張した。

このころに二つの路線があり、文革斗争は激しかった。

毛は張春橋、姚文元の二人を 66.10 月派遣して改革させようとした。

文革が始まった。指導は激しく抵抗し、大衆を弾圧した。しかし大衆は起ち上り、

1966.12 月批判し、67.1.5 奪権し、曹、陳を免職した。

そのころ大連合し、三結合—— 大衆、干部、解放軍とした。

22日 上海

4.8.50 口管上海電気メ-9-工場 参観

P.3 ~ 9.30 上海市革命委員会、宣傳工作班 朱惠民、吳文虎のヒカリ

(国营上海電気メ-9-工場)

(概況)

解放前中は電気計器工場と全くもつてはなかった。解放後発展して 54 年に建設。最初 400 名から出発して生産面積 3,000 m²

1958 大躍進の際一段と拡大された (自力更生により)

現在 職工 2,000 名 29,000 m²

製品 1. 直流測定器 2. 直流検流器 3. 磁電示器 4. 電子メ-9

1967 にテストした新しい種類の製品が 4ヶ月間に成功した。

文革の益將在ち生産面積でも成果をあげた。66年比して 67年は 7% 増。

(文革)

66.6 月の指導のころで文革は開始された。8.18 紅衛兵反党闘争が起された。

本工場でも劉鄴路線が指示された。970 名が大字報の包围攻撃を受けた。

66.8.5 月 1 回の大字報と毛はついた文革の火をつけた。

しかし、反響は激しく、当時の党委員会は毛の先を大衆に向けた。右派の分子、反革命といった。50 名ぐらい逮捕された。

11.9 上海市労働者革命造反司令部ができた。この成立大会は答申したところからあった。66.11~12 にかつて逆派大衆組織が作られた。毛、司令を叩き倒す。造反縦隊は大ツボを打ち、毛の反動路線の毒薬を批判し、毛と毛の劉鄴派の文革小組を批判した。上海市革命委員会の悪風を吹き飛ばした。

1月の革命のあと 67.1.27 連合して奪権した。

赤衛隊は奪権は間違っていた。しかし、毛の逆派は起された。しかし毛の造反者自身頭の中にマダラ思想があった。小グループ主義—— 奪権のあとで反映された。

本工場革命生産委員会準備会を作った。ついで内部の意見相違が表面化した。

毛、縦隊には人面も付く。造反の時期も早かった。と自負して、毛の他をその縦隊の下に置くとした。その他の人間には別の意見もついていたが、自身がマダラの

ために、2.4まで五つの小隊は準備会をたつた。そして2.23に分かれた。
走資派は喜んで、そして我々の内なる矛盾と便についてきた。この日の2月中は数回
に衝突が続いた。2.6造反隊の方で大会をひらき、劉鄩批判として。
周炳坤(上海総工会副主席)——四清工作队長として工場にきていたことがあつた。
とつと上げようとした。この大会は半分で开会せざるをえなかった。

これが第1回の武斗であり、そのころ続いた。
基本原則には一致していたのに、武斗をどうせよと、——^心——^心が頭の中に入らなかつた。
2.6第2回の武斗、それは四清運動が原因でいた。縦隊には大会をひら
こうとした。これにむかひにみえかけた。お互いに方向の向違ひを指摘しあつた。
各々の意見を述べあつた。2.7工場内で討論集会をひらき、先日の流会が正
しかつたかどうかを討論した。我々が9対1で勝利したが大衆の通告をひらいた。
——①縦隊に対する革命斗争に対し自己批判せよ ②向違ひを認めないものは
文革の活動を停止せよ。——この通告は多数の方で相手をやつつける向違ひ
を犯した。毛は事実と違ひ相手と説得せよと教へてくれた。

縦隊はこれに承知しあつた。当時この大会は造反縦隊が主催した。
周炳坤の事件に因つては、上海市公安局が既に処理済みのことであり、我々の
いっぺんが人数が多かつたので、我々が大会をひらこうとしたら、相手が流会に
してしまつたのです。相手は縦隊のことは右派の反転だといつたのです。
また16ヶ条に反するともいふた。

2.23. 縦隊が大会をひらこうとしたら、臨時革命委員会はこの大衆の主張を
といて武斗した。2.6大会は、またその時期にこの問題があつた。
文革においては四清運動はすべて……? において採りあげようとするといふ
方向が中央から出されてきたからである。2.6大会の様子を返して作戦だと思つたので
もし、2.23大会がひらかかるといふなら、以前の自分の主張をい違つてくると思つたの
です。そこで放送を押さへ、会場を押さへ、結局「ラジ」で開くことになつたが、それが
相手の会行をせしめた。そこで縦隊にはイデオロギモに移つた。

委員会側は事故大会を催さうとしたからといって、周炳坤の事件は大衆に知らせるべき
にない。縦隊に対して、16ヶ条に違反しては(武斗をやつたはむづかしい)なうとい

から会場を移転しよう。しかし結局大会はひらけなかつた。我々の利害の衝突
をさけようとしてうもてた。大衆は我々のほめだ。この大会以来5つの小隊は
我々の支持した。2.23以降情勢は有利であつた。しかし、R.T路線の毒が
すこしばかりあつた。

張春橋(文化小組)は2.24毛の言葉と伝へた——三結合
2.28幹部も管を12の小隊と連合して、上海電気メーカー工場臨時革命委員会を組織した。
当時造反縦隊はこれにむかひにみえかけた。相手は十分に準備したのだから、
これに、抗戦、反右の大字報を作り、この成立は走資派の復讐であり、反奪権であり、社会
法組織をなす、解散せよと主張した。このよつと9時向後6名の幹部は4人で脱退した。
我々の武闘部もこれに脱退した——武装部はこれに支持するであつた。縦隊を支持す
べきであつた。2.28以後二つの派閥が顕在的に表れた。その7月10日あたり、内
戦が行われた。今にしてみれば、まわ路したものだと思つた。すくなくとも斗争の大方向を
いかにとらへていざなうか。結局6.7.7連合した。

語論的にいふと、斗私批修、大批判の原則が6月初毛思想学習班が作りだ
した通知が、幹部はこれに参加するといふことになつた。
当時の幹部は家に私心雑念が多くて参加しなかつた。縦隊の人は6日に入会申込したが
8日には帰つてきた。毛著作は学習班が、その間自分の組織が壊れてしまつた。そこで一部の
隊員と4.6名を遣はした。しかし学習の目的も自覚してあつたからさうばかりであつた。
学習のテキスト——6.3批文元、張春橋同志の……? 6.2通知。

(しかし語論がまじつた。この工場の問題は一つの路線の階級斗争であるといふので、内部の矛盾
と外部の矛盾に拡大したのです。学習班の班長は、縦隊の代表に革命委員会の方へ進ん
だといふことになつた。さう古来の保守派の無益の状況が、貴族の身分の
だといふ反論した。あの頃の工場の人々の話をして、縦隊の者は向眼した。
そして5.16通知を学習した。——誰かが敵であり、友であり、何が主要な矛盾であり、
何が従属の矛盾であるか。

三結合は完全に達成できなかったのに、委員会という名前はとも正しく権力機構があつた
うな印象を受ける。そこで委員会側もそのことを認め大連合した。
しかし、工場においては仲立理解してあつた。そこで学習班は参加して工場内で大字
10名

報をだして啓蒙した。しかし幹部は任事なく大衆報をだしたが、直ぐの中では大連合したことがあった。ニッケが回りに分れた。大連合というニッケに仲々思想の理解がなかった。丁度6月に東海艦隊に毛思想宣伝隊がやってきて宣伝した。

宣伝隊は、未だにはっきり、労働者の心をつかんで毛思想を大く植えてくれた。老二編の指導報告をした。①敵に対しては徹底的に打倒すべし。②大衆組織、兄弟組織とは同語すべし。③目かくしをやる保守的大衆に対しては、鋭意同語して目的を達成せねばならぬ。

解放軍に指摘され、誤りを自覚した。全交流会ができた、自己批判した。それ、痛めるのは自分の心であり、傷つけたのは毛路線である。これ続けたゆえに社会主義の程度はちがうであろう、というべきを自覚した。

15学活用交流会を討論した。両派はちんちん接近してゆく。自己に或いは他人に40頁に批判するが——①大方向(秀た点)のみ、②自己中心をいふ。③主要面をみらして枝葉ばかりみる。④大衆向に意見の相違はあり(一部矛盾)。この二つをいって、主要な矛盾とどうなるか矛盾をみるべきができるようになったので、R.T.各隊に送り批判集会が連合して動くようになった。

67.8.1 相方の第4委員会をもち、8.18毛主席が紅衛兵接見の10周年記念日に統一組織をもった。この10周年は記念エッセイ角で、未だに至るまで統一がとれてきた。

8.18日上海電気メカ工場 8.18工場造反集団を結成。そのの早期に、幹部を解放して、革命委員会を作った。

経済主義——至極交流に北京へでかけた場合、汽車賃をだして大勢ゆかせようとして、大衆から走資派への批判の目をそらせた。

上海市共産党の王洪文が必ず違反した。

(上海市革命委員会 宣伝工作班員 朱惠民、吳文虎 (ハの語) (上海市にかけた文革にかけ)

1. 女論準備の段階

65.11.10 文汇报掲載の刘文元の論文が全上海市で広汎な女論が形成された。市民の心の中で文革を批判しようとしていた。

文革を勝利した後、いかに確立するか——社会主義の革命をいかに進めるかの問題が起ります。

ニツの特徴

a. 当時文汇报が「オライの発言を評す」と紹介すると、彭真を始めとする北京市委員会は大水と益じゆうのふりに怒った。

北京の新南に載せるとを禁じた。そこで新南に載せられなかったものはパンフレットを作り各地に紹介した。

このことから毛沢東派が死ぬほど怖れていふことが分る。

上海市の曹秋と陳は、彭真と交流を交換していた。彼等は北京に報告してあきらめはいいからと云って、一部始終を報告し、大衆をギマンして、一心女論をつかんでいっていた。

我が方の革委会司令部は、女論をつかもうとしていた。こうして走資派は、大衆が起ったムンも起し目的を達しちゆうした。

2. 66.5.16 中央委員会からの5.16通知の発表から12月まで9ヶ月は広汎な大衆を動員した段階。

こうして毛主席の革命路線は大衆の中に入り確立していった。

① 学生関係

66.8月以前まで分散した小型のものだった。8月中旬から下旬にかけて、北京の学生は北京に至極交流にいった。

66.8.30と31の両日上海市委員会に押しつけた。陳、曹は会見した。このため、委員会の中へナダレ込んだ。こうして学生が隊列が形成された。

② 総工関係

一般的には66.10月から起った。労働者造反司令部が指導した。

6.11.9に成立した。この日有名な安亭事件があった。

その時 総司令部ができて、市委員会に承認を求めた。

当時の陳、曹は市委員会は、次の三つの返答をした。

a. 大会に参加しない b. 司令部を承認しない c. _____ ?

労働者造反派は怒り、北京に通訴した。彼等はあわてた。

10万人の労働者が北京へゆくことの責任を惧れたので、

その陰謀をめぐらし、汽車道の運行を一時停止させた。

党中央は、陳、曹を上海に送り、正しく処理するよう下等局と上海市委員会に命じた。そして張春橋同志も上海に派遣した。

張春橋同志は、上海につくまで労働者に会話し、一歩では革命委員会を支持し、

また一歩では広汎な労働者運動を、職場に帰る生産を促すよう指示した。

会談ももち、造反司令部が革命組織であると認められた。

このときから、労働者はわきまを文筆を造り、戦斗的力場の隊列を確立した。

③ 解放日報事件

6.11.28 上海の紅衛兵の小将は、「解放日報」を批判しようとした。

紅衛兵たちは「紅衛戦報」を解放日報と同時に発行するよう要求した。

解放日報は党の機関紙であるからダメだ、という一歩では党の機関紙が党によって封鎖されるまいと、大衆にデマ宣伝した。

総司令部は断固として紅衛戦報を支持した。市委員会は止めろとこの要求を認めなかった。この事件を通じて学生と労働者が結合した。

④ 幹部の問題

6.12.18. 枝角の幹部は、市委員会の誤りを認める大会をもち、曹、陳を打倒するに決意した。このように幹部が起ったとき、ゴウゴウたる大会が確立された。陳、曹の枝角はマヒした。

⑤ いかれ彼等はどのように引下がるのか

6.12.6 曹荻秋が自ら指揮した赤衛隊が生れた。赤衛隊は成立すべく、中央文革に批判を向けた。

彼等は司令部承認に反対した。このころ曹荻秋が、このときになって、赤

衛隊にも組織ができたかという、大衆を目標にして、キマシたからです。

例えば、我々も毛主席の党の党にいていつか、木可慶施（前上海市青島区、市段病気のたか65役）の指手を守ってきた。「三家村を評す」「ライオンをメロンと評す」と我々上海が編集したもので、15,000トプレスも上海が造り上げたもので、この木可慶施同志の手帳極を自分のものにして宣伝した。

(二ツ目の事件は)

6.12.7. 陳、曹の二人は上海の生産をストップしようとして、電気、水道、交通の三ツを停止しようとした。

当時の革命的労働者、学生は、これを見破り、赤衛隊の多くも自覚したので失敗した。

(三ツ目の事件)

6.12.28の康平路事件

陳、曹の二人は赤衛隊をそそのかして、上海市委員会書記局を包囲した。

(四ツ目の事件)

彼等はこれらの事件が失敗する、最後の手段として、経済封鎖をもつた。

即ち、奉、ハイケンに陳に黒い会計をもつたに命じた。

その経済主義とは、ある程度緩和して労働者の賃金、福利を増やすように、労働者の外地での交通交流に便宜を企つた。

しかし、これを毛沢東思想で武装した労働者の中では失敗した。

このように陳、曹の枝角は完全にマヒし、文革は三つの段階にはいる。

3. 奪権斗争の段階

革命派は、陳、曹の反革命を分析した。彼等はこうして、このときにもつた、経済主義を起すのが、それは実権が彼等によるからである。

その経済主義の横暴な陰謀を打破するために、67.1.5に、11ヶの革命組織が「全上海市民に告ぐ」を發表した。67.1.9日32ヶの緊急通告を發表した。67.1.6に全上海市の革命派が連合して集会をし、曹市長を認めないことを決断した。このときから、市の実権はプロ革命派に引き渡された。しかし、臨時の革命機構をもうたつたことは困難なことであった。

1.15までに二つの革命組織が、全革命組織を一つにした。この奪権は失敗に終わった。

66.11.9に成立した。この日有名な安亭事件があった。
その時 総司令部が来て、市委員会に承認を求めた。
当時の陳、曹は市委員会に、次の三つの返答をした。

- a. 大会に参加しない b. 司令部を承認しない c. _____?

労働者造反派は怒り、北京に通訴しようとした。彼等はわがわが、

10万人の労働者が北京へ行くことへの責任を惧れたので、

その一環謀をめぐり、汽車道の運行を一時的に停めた。

党中央は、陳、曹を上海に送り、正しく処理するよう下等局と上海市委
会に命じた。そして張春橋同志を上海に派遣した。

張春橋同志は、上海につくとすぐ労働者に会見し、一オマは革命委員会を支持

また一オマは広汎な労働者を動員し、戦場に向って生産を促すよう指示した。

会談ももち、造反司令部が革命組織であると認められた。

このときから、労働者はわがわが文革と進み、革命的力場の階級を確立した。

③ 解放日報事件

66.11.28 上海の紅衛兵の小将は、「解放日報」を批判しようとしていた。

紅衛兵たちは「紅衛戦報」を解放日報と同時に発行するよう要求した。

解放日報は党の機関紙であったからダメだ、と一オマは党の機関紙が党に
よって封鎖されるまいと、大衆にデマを宣伝した。

総司令部は断固して紅衛戦報を支持した。市委員会は止めろとの要求
を認めた。この事件を通じて労働者と学生が結合した。

④ 幹部の問題

66.12.18、機関の幹部は、市委員会の誤りを認めよう大会をもち、曹、陳を打
倒するべきと打ち明けた。このように幹部が起上がったとき、ごろごろたる大連合
が確立された。陳、曹の株はマヒした。

⑤ しか彼等はどのように引下ろされたか。

66.12.6 曹蕪秋が自ら指揮した赤衛隊が生じた。赤衛隊は成立すべく、
中央文革に批判を向けた。

彼等は司令部を承認に反対した。このときから、曹蕪秋が、このときから、赤

衛隊にも組織ができたという、大衆を動かすに、キマシたから、

例えば、我々の毛主席の党の党について、何となく、本可慶施(前、上海市第一書記、市段
病気のたか(5段)の指子を守つてきた。「三家村を評す」「カイロのメロンを評す」も
我々上海が編集したもので、15,000トプレスも上海が造り上げたもの、といつて
本可慶施同志の手配も自分のものにして宣伝した。

(二ツ目の事件は)

66.12.7、陳、曹の二人は上海の生産をストップしようとして、電気、水道、交通の三ツ
を停止しようとした。

当時の革命的労働者、学生は、これを見破り、赤衛隊の多くも自覚したので失敗した。

(三ツ目の事件)

66.12.28の康平路事件

陳、曹の二人は赤衛隊をそそのかして、上海市委書記局を包囲した。

(四ツ目の事件)

彼等はこれらの事件が失敗して、最後の手段として、経済封鎖をもちかけた。

即ち、秦、ハイケンに陳に黒い会計をもちょうに命じた。

この経済封鎖とは、ある程度緩和して労働者の賃金、福利を増やすようにし、労働
者の外地での経済交流に便宜を企った。

しかし、これは毛沢東思想で武装した労働者の中では失敗した。

このように陳、曹の株は完全にマヒし、文革は三つの段階がはいる。

3. 奪権斗争の段階

革命派は、陳、曹の反革命を分析した。彼等はこうして、このときから、
経済主義を起すのが、それは実権が彼等にはからつていなくなった。

この経済主義の横暴な陰謀を打破すために、67.1.5に、11ヶの革命組
織が、「全上海市民に告ぐ」を發表した。67.1.9日32ヶの緊急通告を
發表した。67.1.6に全上海市の革命派が連合して集会をもち、曹市長
と認めないを決議した。このときから、市の実権はプロレタリア革命派に
移された。しかし、臨時の革命機構をうちたつたことは困難なことがわかった。

1.15までに二つの革命組織が、全革命組織を形成した。この奪権は失敗に
終わった。

四つの大きな組織が、二つの組織を奪取したが、これも成功しなかった。
小さい二つの組織が奪取したため、これも失敗に終わった。

2.5にちつて、革命組織は奪取に初めて成功した。

この日、上海市臨時権力機構——上海人民公社——ができた。

そして正式には、上海市臨時革命委員会と稱した。

彼等の中に二つの意見があり、別に上海人民委員会をもつとした。

そこで皆が話し合つて四ヶ条を制定した。

a. 梁起組織にすまじ。 b. 新南川のせどき名称のせむ。 c. ——— ?

d. 右に、反革命分子が~~の~~限り、誰でも革命に参加できる。

このようにして、このときから新しい革命委員会が成立し、プロ革命派が権力を奪取した。そして、その指導の下に、幾つかの活動を遂げ、毛思想の活学活用をやつてきた。

組織が思想も革命し、大衆をも十分に連合し、遂に、革命的三者連合を組織し、各級の革命委員会を立ち立てた。

斗争の大方向としてつかりを確立し、陳、曹の実権派とついでに批判した。

そして、幹部が中心と斗争を批判して、革命派に戻つてくるよう指導した。

多くの幹部は実権派に毒を吐いてきたことを認め、三者結合で連合した。

工業大都市で、生産任務が重い。労働者階級は革命の面でも、生産の面でも

うまく進んでいる。昨年の生産は、工農とも立派に貫徹している。

プロ文革は毛主席の指導がなければ、これはよく武裝されたければ、立派にはやれない。

プロ文革は毛主席の指導がなければ、これはよく武裝されたければ、立派にはやれない。

プロ文革は毛主席の指導がなければ、これはよく武裝されたければ、立派にはやれない。

プロ文革は毛主席の指導がなければ、これはよく武裝されたければ、立派にはやれない。

「上海人民公社」という呼称にすれば、^{国家機構上}上海市だけの内題で「から」という毛主席の指示で、「上海市革命委員会」とした。

市委員会が幹部といわゆる者 約1,000名。そして革命委員会に2230名が打倒されたが、残りは皆参加しては。

思い切りの代表、陳 (市長)

曹 蕪秋 (

楊 西光

66.12.18 党組織の中に200名ぐらいの造反ステーションがあった。

58年に毛主席は文革を批判して呼びかけた。

「奉官秘史」 「武評伝」 「紅樓夢」

〔中国共産党組織論〕

——プロレタリア文革における組織論として。

1. 党の歴史の意義

プロ文革はかかる条件、基礎の上に立つて行われている。

偉大な光栄ある中共と毛主席の指導の下に行われた。1921年共産党を中核とした指導

の下に、そしてもう一つ強大な人民解放軍の下に、革命の根本的課題は政权であり、

政权夺取後の主要な要素は鉄砲をしっかりと握ることです。従って毛主席の「鉄砲から政

権が生まれる」は革命後にも必要のことです。ですから鉄砲があれば、プロ独裁も

政权の樹立が確立されるのです。中共の歴史をひもとくと、鉄砲によって政权が生

まされたということができます。プロ文革は、プロ独裁の下にあり始めています。

2. 革命路線とは何ですか。

我々の経験からいって、大衆を信じ、頼り、創造精神を尊重することをいいます。

従って、毛主席の大衆路線、革命路線の立場に立つたかどうかによって、大衆に対する態度は

決まる。

3. 文革の現状はどうか。

文革前、党中央は、反毛派が多数を占めていた。

我々の階級斗争の矛は毛目に向けなければならぬ。党内に矛盾が存在しなければ、党

の生命は停止するであろう。もし中共の歴史をひもとくと、一貫して二つの路線が

存在していたことに気がつくであろう。従って革命達成後は、毛と劉と代表とする修

正主義の二つの路線があったわけである。

毛主席を中心とした革命路線は、共産主義へ高邁な路線であり、劉の修正主義路

線は、資本主義へ向う路線である。

このようにして皆工人は知っていたでしょう。 — 1902年4月革命の独裁後に資本主義の歩むべきは、根柢を動かして進むべき — 彼等は修正主義を宣伝し、大衆の目からしめる役目をしていきます。文革前、劉少奇が進めたいのは、主なるものは、ドレイ主義の黒い毒薬です。

「私=我党であり、党=私がある」というたへん同様の教義です。例えば党組織の中で、下部が上部に意見をだした場合は、個人が党に意見をだしても、反党行為だと決めつけ、下部は無条件に上の者の言いを聞くべきで、下部の者も自分の言いなりに従うようにするドレイ主義です。

4. プロ文革何故必要だったのか。
答は、いろいろないふを言いたくはないが、基本的には一つの、党内、軍隊の中に毛ゼンが走資派を追い出すにはある。
このように矛盾を解決しなければ、中間の現状を打破することは不可能だ。

5. 党の代表大会をひらき、毛に毛の走資派とつみあたすことは不可能だったのか。

(語録 1.56 階級斗争 参照)
毛主席の革命路線は走資派とつみあたす斗争ですが、走資派は大衆をこらしめるようにして、

5.16 通知が下りてきて、全国の革命的党員と大衆は、~~毛~~走資派を追い出す。しかし劉鄧は、木こ先も大衆に向け、白色テロをし、党組織を倒して大衆を動かした。その際、大衆は党を攻撃した。

当時、劉鄧の性格と大衆は、はつきり認識できなかった。だから組織上、形勢上には処理することは本当の処理にはならなかった。

もし処理できたとしても、大衆は本当に劉鄧のどが悪いのか判断できなかった。劉鄧の毒薬を根こそぎにしたい。再び花をかきさすことになる。

当時、党下部組織で十分に党組織を發揮したところもある。農村を解放軍の中からはそうだった。

我々は、或る一つの党員、一つの場所を去るのがなく、党の路線がどの階級を代表しているかをみなければならぬ。

いからる運動も、必ず行つて理論が生ずる。実践があつて概念を学ぶ。泳ぐの中で泳ぎを覚える。従つて文革を通じて、我が党は栄ある党になり、一層強くなったのだ。このから共産党員は、いかにして革命をやりぬくかという事で、よい体質を得た。もし走資派があらば一掃ささるだろうし、そうなければ一層強く、戦斗力が増大ささるだろう。

6. 如何にして党組織を理解すべきでしょうか、
当時の条件に基づいて分析を加へなければならぬ。人間の思想の中にある修正主義、資本主義を破らねばならぬ。階級がなければ流水もいとも主席は教えない。

破る場合には、自分の主観的見地に基づいて行へば官僚主義になる。つみあたす。大衆を動員して破るべきです。プロ独裁の下では更に一層ひどい苦です。一見した所、党の組織は、その内に役割を果しているようにみえますが、決してそうはありませぬ。

実際には毛主席の革命路線が、党員、革命大衆と対面するようになった。例えば毛主席の有名文 — 司令部を砲撃せよ — があり、毛に毛の实际控制权は、下部の者を封鎖して知らせなかった。上海では毛が毛を伝達したことはなかった。直接革命的造反派が依ってきたのだ。毛主席が直接手渡したのだ。

我々の偉大な指導者毛主席は、自信と大志とキモツ玉をもつたので、大衆を動かしたのだ。ソ連、日共修正主義者は、毛をやらせぬ。自分が滅亡するからです。毛には私がかつた目的を達成することはできない。

これらのことは、中共の党組織の作用を証し、学ある伝統の党組織があることを証明している。

7. 反党に会計と毛の内題を処理することを参考にしよう。

結果は勿論できぬ。もし走資派のみにくい海をさすだけなら、大衆は毛をかきさすだけ。従つて我々は — 革命は毛が持つべきで、毛は毛 — と云ふのだ。この党組織を理解するには、丁度条件をみなければならぬ。また当時起つた事項もみなければならぬ。文革を行つた前提は走資派を追い出すのに有利なわけはならぬ。ある部分では古い機械を打ち壊して新しいものを作りださなければならぬ。我々の党組織を更に戦斗力あるものにしよう。

に立上りあげねばならぬ。文革の実際は、一部の党員が、この階級の崩壊に立
って進んできたというところが事実です。

皆さんも知っているように、総司令官の王洪文同志も党員です。

上海市革命委員会、徐景賢、王承龍、王秀珍、王洪文、姚文元、王少席
原、天水 などの同志も市委員会の人で文革をリードした。

だから何事でも場合、表面上だけでなく、実質、実態がどうあるかを見るには
必要だ。

(補足)

文革のも一つの意義は後継者と育てることです。

厳い中で育てたのは、温室で育てた。だからこの文革の中で強くつたのが

(経済主義は文革前からおきた)

—— 修正主義の斗争

経済主義の問題は、経済の面での二つの路線の斗争です。上海の状況は、文革前にも二つの
斗争があった。可慶施市長(故人)は一貫して革命路線を歩いた。

大衆運動を大いにやり、^人人向の思想の革命化をやりました。しかし、そのころ陳、曹は
は劉少奇の悪い修正主義路線を歩いた。工場など、物質によるやりとりを
した。労働運動を経済主義に変えようとした。

上海の労働者階級は可慶施市長の下で反撃を加え、革命は——生産のためにやるの
あって、お金のためにやるのではない——というスローガンで掲げた。一部の工場や企業は
軒々貸金制と化していたが、毎月固定した貸金に変えた。つまり文革前にも生産面と
経済面での二つの路線の斗争があったこともおぼろげに。

経済主義は資本主義のものであり、社会主義の道ではない。以前資本家は多くの搾取
労働者からして、賃金を上げたり、福祉を少し増やして、労働者を甘やかして
きた。だから、経済主義の存在として、矛盾を解決し、自分の支配をうけたまうてきた。
経済主義は労働運動の毒色剤であった。

上海は66年未だに、陳、曹らは組織上、政治上、労働者と渡りあうことができた、

労働者をか解する方法と考えた。勿論、この思想は実現することは不可能です。
1月革命の最中に、上海プロレタリア革命は広大な大衆に押し、摘発し、警察の
斗争をやった。しかしこの問題の解決は長期にわたる斗争が必要だった。

我々は毛の教訓に従って、模索しつてあります。というのは、この問題は修正主義が長期に
わたって跋扈してきたのであります。

~~社会主義~~のプロレタリア独裁に於ける社会主義にどういふ模索中です。
毛主席がいっつにように、文革も一定の期間を経て、斗争、批判、改革の段階をたどら
なければならぬ。また改革の段階がない。

学生の内訳については、毛は、——学生は学業を主とし他のものを併せて学ぶべきだ——と語って
いる。上海のプロレタリア革命は、毛主席の教訓に従って実践しつてあります。
今日どう改革するかという事は、まだ十分に話せません。

(貯蓄について) ……労働者が割に多額の金を預金していったら、
解放後、社会主義建設をして、一定の成果をあげたが、確かに比較的に行き水
準は低い。社会主義国として、中国は、他国を解放する任務もつた。

この方法にどう? 中国には、三大差別——農民と労働者、都市と地方、頭脳労働
者と肉体労働者——をなくしようとしています。

(文芸問題)

思想の形成領域に於て激しい斗争がある。政权夺取後、革命が確立した
わけだからこの問題がある。解放後、毛主席は自ら文芸战线において指導した。
紅樓夢、……? などを批判してきた。

今重層的にどういふ問題もあってあり、非常にむづかしい問題です。
深層まで一連の改革を行なった。死人と舞台から追いだした。例えば「白毛女」をい
かにして新しい内容を入れて舞うべきか、かつアレー、スクリンを種々の方法をとった
が失敗した。中国には新しい内容の白毛女、女性中隊長を作り、古い舞台をとりか
て立て替えたのです。一連の、今現在建設的台の——白鳥の湖、——をやっ
ている。これは人民に奉仕することはできぬでしょう。中国の古い京劇を以前は

封建的のものやアソビが、打破された。今沢山の模範的に新しく改善されたものがあります。

新しい京劇——紅灯記、海港、智取威虎山、沙家浜、奇襲白虎團

、バレ——白毛女、紅色娘子軍

、新劇——収租院

交響曲も改革された。教育面のも思想も、已然として頑迷なものがあります。毛主席は偉大な才幹と示された。今はそれに沿って前進しています。

学生は学業も主とし、農業も工業もできブルジョアジーもいかに批判するべきかという。同済大学のこの運動が進められています。

宗教は、観念論の唯我主義が廃れ、観念論が失われたことありです。

23日 上海

午前 上海工業展覧会を参観

午後 自修

夜 南ベトナム解放戦線歌謡団を観劇

たまたま来中していた歌謡団総勢約50名の歌と歌舞
その人たちの兄弟が、我がアソビと闘っていること、実感深し。

舞台上で歌っている時向にも、彼等の同胞はアソビと闘っている。

24日 上海

午前 上海東風肉類工場 参観
午後 労働新村(労働者住宅団地) 参観
夜 京劇・紅灯記の観劇

(上海東風肉類工場)

上海市食品会社に所属し、ブタ、牛、ヒツゲ、ウサギのト殺加工
13部門 — ブタ工場4、加工販売5、焼爇、冷蔵2
全工場の従業員 8,700名

1日の処理量 ブタ平均8,000頭、ウサギ12,000頭

本工場の従業員は2,000名

1920年ドイツが造った。解放後、労働者の手によって機械化してきた。

58年大躍進の際一段と革新された。例として毛抜き機は1時間300頭の
ブタを毛抜きができた。文革後平均3%増の生産を上げていた。

(文革にかつ)

一般には他と同様のケースを通じて私たちの工場も文革は女子だった。
毛主席に指導された文革の内容は豊富である。今日はいかに正しく幹部の問
題を取扱ったかについて話します。私たちは政治的レベルを低くし、
毛主席の学習も十分ではないが、不十分を免は了承して下されい。

(幹部の問題をいかに正しく対処したか)

幹部にはそのとき既に四清運動を始めていた。四清運動の後半期にエフ
降の幹部に批判的議論がなされた。—この幹部は良い幹部であるという—
文革開始後、文化工作隊は走資派は派遣してきて、大多数の幹部にたい
打撃を与え、一部の走資派幹部を援助した。
従って大衆は、幹部に対して非常に誤った評価をした。もし国民党が戻ら
たとすれば、本工場は看板だけを塗り変えればよい—この意味は今の幹部は悪い
幹部だということになる。この誤った結論は、誤った方針を文化工作隊は行つた。
一掃の場合に、横から掃く縦から掃く、中央から本工場の鬼を逐駆する。—20か
文化工作隊は、大きい工場と同時に、小さい鬼も逐駆する—20-ガン

このように、以前から議論がなっている問題も否定する方向を示した、大多数の幹部に
性変化というレッテルをつけた。この工場でも白色テロに陥つた。

ブルジョア路線派は83名の幹部のうち、42名を批判した。造反派が立ち上って奪取斗
争を行つたとき、我々の任務は幹部の問題に如何に正しく対処すべきかという点であった。

毛主席の革命路線は—1に5の悪い幹部に対して打撃を与えるという原則であった。
その意味はこの毛主席の教訓に従って、幹部についていろいろ分析した。16ヶ条を学習した

—大多数の幹部は比較的良い幹部だと教えている。紅衛社の社説にもいつているように
毛主席の革命路線が指導的役割を果たしている。もし幹部の大多数が良い幹部であら
うとしたら、今のこの毛主席の革命路線は誰が押し進めてきたと云えるだろうか。

如何にして幹部を識別するにしろは先ず問題であった。次の二つの条件で識別した

- (1) 三つの区別すべき問題
 - a. 二種類の矛盾の性質を区別すること。
つまり幹部の誤ちは一般の誤ちか、反党であるかという点。—敵対矛盾か人民内部の矛盾か。
 - b. 二つの限界を識別すること。
毛主席の革命路線か、反動路線で何が区別する—幹部の誤ちの後、実権派と、自らの
態度がはっきりしたか。
 - c. 二種類の態度
誤ちの後、真面目に自分の態度を改めよう努力しているかどうかが。

- (2) 三つの観衆
 - a. 階級分析の観衆が幹部の認識を目的と。
階級出身を認めると同時に、個人の政治的表現をみる。それは政治運動の中で
どのような立場に立っているか、階級の再認識はプロパガンダをみる。
 - b. 内題をみるには両者の立場からみる観衆
識別するのは文革後の表現だけでなく、文革前の表現をみなければならぬ。
つまり、階級の全工場、全工場の状況をみるべきである。
 - c. 大衆の観衆
良い不良は大衆が評定する、何故に必要かという点。幹部は大衆の中で工
作している訳だから、大衆が一番よく知っているからである。

彼等も思想的にも学習させ、林彪も学ばせ、紅衛社の説も読ませ、これを通じて思想と実際の認識を高めた。——何かが反動であり、何かが革命路線を学ばせ、反動路線は上級からの指示であったから、私個人の責任ではない。即ち積極的にやったわけがないということに不満ももっていた。これは、自分の世界観とも関係があるから誤ったのだ、という認識をもつのだというこゝと自覚した。上級からの指示に対して抵抗しなかったのは、自分が上級の誤った指示と同じ世界観だったから、批判できなかったのだ。

(b) 階級教育

幹部は大部分が労働階級の出身だから、採取された経験もあり、従って古い社会を懐疑している。新制度と非常に熱意している。だから、新旧双方を比較させて階級意識を呼び起させた。

(c) 大衆教育

演説会で大衆が幹部に対して教育した。造反の理由、経過を幹部に対して大衆が話した。

(造反の動機) 個人の利益から、毛主席を守るために起上った。各方面からのシヨックがそのことには、前もって全く知っていた。だから造反のときは機嫌を損ねるにやめた。反革命といふことに反しても、思想の面を準備していた。又政治改造にやまらざることも、高世増とらもいふからいふことも、刑務所入りも、そして命をかけることも覚悟し準備していた。例えば、高世増した後の全体的負担も考慮していた。あの学仍者は、造反する大字報を書く前に、反動路線を暴露するこゝと決意した。しかし、今は反革命のレッテルをはらうこともある。だから母に貯金のうちから送金して、最後の送金にしようともいふ。あつても思想の学習もして下せよと書いた。いろいろ心の準備をしたけれど、彼等には一ツの信念があった。しかし最終的には毛主席の路線は正しい。必ず勝利するのだからという確信ももっていた。

このような大衆の話と聞かされて、幹部は自分の反動路線が誤りであったことを自己批判した。大衆がどのように個人の犠牲を叫ぶかに起上ったことに、自分は今まで、彼等を弾圧していたのは、反毛 ~~思想~~ があったと自覚した。

(d) 幹部の自己教育

学習し、自覚が高まってくる。BPS思想の変革の経過を話しあう。幹部はお互いに教育しあうということ。

以上の教育から、正しい自己批判ができるようになった。自分に対して厳格に自己批判したばかりでなく、上級が今まで行った誤りを暴露し批判した。自分の行動を以て走覚し、反動路線に対して厳格に一線を引いたことを大衆に示した。このように幹部は、自分の誤りを自己批判したので、自己嫌悪に陥っていたので、彼等には行動の新しい道に立つように要求した。政治所の主任も、この意見に従って現場にゆくと、大衆は自分たちを弾圧した下手人がやつたことを暴露したので、彼は愧れた。我々は彼を激励した。自分の行動で、心で、大衆の認識を改めさせる

以上のような教育の結果、彼等は敬肅格を自己批判するようになった。例えば、政治所の副書記は完全に反動路線を犯した。しかしこの結果、思想的に斗争し、家庭が即飯ものにはいささかほど反動した。以前の斗争の時には食も進んだのに、今はどうしてこうなのか——それは自分が本心に誤りを犯したことに気がついたからです。造反以前に以前話した自己批判は由儀だった。今度のは本心に心の中心から出てきた本もので、彼は誤りの原因を自覚して話した。例えば政治所の主任は、文革の時は反動路線を進めよう誤った。彼は言った——私は本来貧農出身が、若い時はコソコソとしたこともあり、地主の大にかみつかれたこともあり。そのときは、勤労大衆と被圧迫大衆とを深く結びあうと思った。革命後私の地位が変ったことに従って、思想の感情(観念)も変わってしまったので、今事務室にいて大衆と離れてしまふ、そのことを忘れ、逆に大衆を抑圧するに知らず知らずなつてしまった。兄弟に対してムチ打つほじにもなつてしまつて来たのだ。又あの幹部は言った——戦争の時には槍をもちて敵と斗っていたが、見ると敵に対しては進退も退くことも知っていた。しかし平和な今の時には、槍をもちていふ敵と斗うときに警戒心を失つてしまった。ブルジョアジーの砲弾に打たれることが目にもみえないので警戒心を失った。解放後は自分の思想に対して厳格になつたので、このように誤ってしまったのだ。大衆を恐れるなくなり、大衆を抑圧する新しい団体にはいつたりしたのだ。

以上の教育から、正しい自己批判ができるようになった。自分に対して厳格に自己批判したばかりでなく、上級が今まで行った誤りを暴露し批判した。自分の行動を以て走覚し、反動路線に対して厳格に一線を引いたことを大衆に示した。このように幹部は、自分の誤りを自己批判したので、自己嫌悪に陥っていたので、彼等には行動の新しい道に立つように要求した。政治所の主任も、この意見に従って現場にゆくと、大衆は自分たちを弾圧した下手人がやつたことを暴露したので、彼は愧れた。我々は彼を激励した。自分の行動で、心で、大衆の認識を改めさせる

けいはいはさういしと激務した、以前は指導者として大衆の中に入っていたが、今度
は労働者の中の一員として一着に作業し、休時間と一緒に話した、こうした結果
大衆は復讐を見直していった、今では大衆から非常に歓迎される幹部の
ついでに帰ってきた。

こうした運動を通じて我々は大部分の幹部を解放していったのです。
現在では二人を除いて解放した、その二人は自分の出身階級もいって革命運
動の中にまぎれこんできた者があり、もう一人は、革命の時らう切り者があつた
分つたのです、解放戦争の時、敵と一着に我々を攻撃していた、その
陳、曹の下にもぐりこもこをこができたのです、四清運動の時は、二人とも
はつていって来て、今度の文革で暴露されたのです。
7人については今調査中で、まだ何とも評価できません。

幹部とは、課長以上の職にあつたものをいふ、本工場では83名の幹部のうち、
75名は再び工作地位に帰った、7名は現在調査中、2名は毒解放せず、
本工場の革命委員会委員41名のうち、党員は21名、以前の幹部は7名が
かいて、それ以外に常任委員6名のうち党員は5名、また以前の幹部は4名、造
反派の代表は2名です。

党員の数は約700名、全労働者の1割 (文革前現在・文革に入つてからは、
整党が完全に終つたのか、入党をまだ認めない)

指導的幹部とは課長以上の者を指す、一般に幹部という場合は、生産に従事し
文章を書く者を指す。

工場党委の組織——党委組織が党委の統一指導体、即ち①行政的部分と
②労働者集団の二つがあり、その党委組織が統一していた。

工場長は上級から任命で、彼は本工場の党にあっては総支部の常任委員にいた。

文革の斗争中では、党の基本的な方針が停止したが、しかしその斗争の中で各々の役割を
果してきた、従つて党員各自は、毛主席の指導をうけて積極的にその役割を果して
きたのです、現在の段階では、党を整党し、プロレタリア建設の路線を進めてい

こうにしています。今度の文革の大批判の中で、劉鄧の反動を徹底的に批判し、
毛主席を絶対的に支持してゆきます。そのために、今度の整党を行つてい
ます。

文革の当初の赤衛隊(反動的組織)は300名もいて優勢だった、そのうちか
え造反派は5名しかいなかった。

〔労働新村、蕃瓜寺(ボトヤ)横丁の参観〕

居民委員会主任、王蘭花、副主任 趙月蘭
天目路街道委員会 李章炎

王蘭花さんは30年二に住んで、元来江蘇省の生れ、
趙副主任は山東省の生れで、解放前の圧政の時代から住んで、
解放前の生活は悲惨で苦しかった、一切の生活設備は何もなかった。

1号路402号に住んで、蔡小母さんの生活——子供二人を養った、豆が、葉っぱを
食べ、ゴロンが支配していた、これは常口主義者、反動派が抑圧した結果です、
解放後は共産党と労働者階級が愛国衛生運動を行つて改革して来た、大衆はそ
の英雄があり、唯人民のみが就職せ、生活設備をよくして来た。

文革後の精神面は大変なものがあつた。

停年したオゲイサン、オハアサンが、復讐は毛思想も学び、学校教育に対して
積極的に意見をだして、

衛生作業では、廃品を利用して掃除をする、その道具は近所の居住者たちに提供
する、「愚公山を移す」の精神が持っている、精神革命を張りつめて来た。

この居民たちも極つた文革の大批判運動に参加して、

35棟 1,600坪、約5,000人、保育園——一部ののみ利用、大半は各駐場のを利用
1963年に新建設、解放前の旧棟を18軒、後への見本として残し保存して、

25%の人は解放前から住んでいる。

居民委員会——委員13名、直接投票で選挙 (停年退職の人が月ごと選ばれる)

各部	1. 文化教育	4. 婦人	通勤時間	遠い人7:15分
	2. 衛生	5. 労働生産	自転車が	平均5分
	3. 生活福祉	6. 青年		

25日 上海

4.9.20 ~ 2.00 上海工具廠 参観

午後 自修

夜 白毛女 観劇

上海工具廠

機械工具類は解放前は全く輸入にたよっていた。もともと日本海軍の魚雷工場であった——中ロ人民に贈るための……

その後 国民党のオミ軍工場となり、独占資本の工場となった。

解放後 200台の機械と20名の工員が残された。

1950年 国家の建設の下に、金属セッケン刃物工場となった。

その後 大躍進を経て現在に至る。

現在、1,000台の工作機械、約3,000名の従業員

政治工作は経済工作の総てである。ソビエト思想が主流を成す。

解放の初期、アメリカは、封じ込め政策もした。この工場については、三年の封鎖を経て、小さな工場から、大きく生産がさるようになった。

1952年、労働者の手によって新しい建物を建設した。

1957年、国際的反共、反中国、毛ソ連の反動化があり、帝国主義の侵攻があった。整党運動を起し、政治思想の勝利をかちとり、その結果大躍進が始まった。毛主席の指示によって、三つの赤旗を高く掲げて大躍進と進められた。

1957年に比べて

1958年の生産 1.5倍

59 " 3倍

60 " 7倍

} 製品の種類も多くなる。

また思想の変化も甚しく変った。1961年 自然災害が続いた。

しかし調整、強化、充実、向上のスローガンも徹底的に貫き、合理的生産増を企て、これは戦争と災害に備えるためである。

丁度この時、劉少奇は工業の面で、国营企业管理法 70ヶ条を制定した。

1960年 毛主席が提出した 梅山の経験と基いて总结した 5項目の原則

1. 政治優先 2. 党の指導性の強化 3. 大衆運動の展開

4. ニツの参加 (a. 干部が生産に従事す。b. 労働者の経営参加)

5. ニツの改革 (不合理な制度の改革)

6. 三結合 (労働、技術、管理) による技術革命

この毛主席の5項目に対抗して 劉少奇が制定した。70ヶ条。

本工場は70ヶ条のモデルとされたので、生産の面を他で大きく影響を受けた。そこで70ヶ条のあるものについては擁護した。

文革の初期に於て、本工場では劉鄧路線を指導され、反革命のレッテルを貼られたものは、約1,000名にも上った。

『圧迫ある所には必ず反抗あり』 造反有理とて造反した。

66.11月 エン造反司令部が成立、

ここでも造反隊を作り中核となった。彼等はニツの路線の斗争をみず惧れ、そこで反革命の経済主義も打ち込んだ。

・賃上、・福祉対策の向上、等々で自己の路線を押し進めようとした。

造反派はこの対抗策として 経理部の仕事を止めさせ、大衆に彼等の隠謀も暴露した。

次に彼等は、中層幹部を全面に出し、直接労働者と交渉させ、工場に来ないで身をかくした。その結果、工場の生産が一時ストップした。

我々は、彼等がこういうことをできるのは、走資派が権力を持っているからだといふことを覚った。

造反派は大連合して、1月革命 (党、政、経、文) の権力奪取をめざした。奪権の後日増しに生産も高まった。

このあと、走資派の修正主義の大批判を行った。無敵の毛思想を理念として 勇進したのだ。

70ヶ条

1961年制定

64年 実質的に骨抜きにされた。

10章が改文

65年 社会建設の批判を受けて改文。

1. 党の指導に反対

(我々の事業を指導するのは共産党であるのに) 行政の従属の地位に党を置いた。

労働の監督、労働管理のみを党にあり、絶対的指導の下にありながら、
これはソ修主義の工場長権利を提唱したもの（一長制）

技術面では技師長が総力の権力

経済面では経理長

このことは、また改造された工場長、インテリの手に工場が託された、その
掌中に握らるゝことである。この結果、党組織と工場長の関係は険悪化
した。

2. 政治を全面に出さない。

利潤主義、物質主義

工場最終目的は生産を行ふことである。従って工場は経済部門であるとい
う。これは工場内の階級闘争の否定である。

走資派の一人薄一歩は曰く——生産がよければその工場は政治が知
りてくると証明している。このことは工場単なる生産部門と見做している。

そして工場に対しては、年生産計画を示し、国家に納入する利潤を決定した
り、その生産工程を無視している。このことは資本主義利潤行爲と同じ
ことである。社会主義建設の必要による計画に基づいて決めるのが、社会主義の
特長である。だからただ利潤を上げることを企てるようになる。

直接利潤を生む場合——軍需、化学実験などもあるから、一概には云
えない。

例えば、工場は修理にも使用できるが、ただの修理は利潤が低い。
従って修理を嫌がるようになり、国家的観点からみれば、損失になる。
利潤主義は資本主義のものである。

従って内部の団結を破壊していき、労働管理の面から不合理が生じて
く、利益の上昇しない、賃金が安くなる。生産物の種類によっても、利
潤の差が生ずる。生産量によって決まらぬものもある。このように新しい市場が生ずる。
工場にも同様、出来高払いは生産の発展を阻害している。何故かと言
うと労働者は出来高制になると、生産を上げなくなるものがある。また、生産
工作機械を大事にしようとする目的の利益のみに向けるようになる。

その中で最も悪質なのは、労働者意識——思想を根柢させていき、
自分の生活向上のみに目をつけるようになる。

奨励制度による利潤追求は、政治の面での思想を忘れた、階級国家、国
際プロレタリア運動その他を忘れた。生活のレベルアップだけが社会主義の観点
だ、という言明した認識をもつようになる。

出来高払いは、例え人を殺しても血がみえない制度だ、と思えるようになる。

歩合給は基本給料の35%ぐらいだった。

3. 大衆運動に反対する。

人民だけが真の英雄であり、専上の創造主でありと教える。

責任制度——人間を機械の奴隷と見做している。

元来大躍進のときに不合理な面を改善した。

70ヶ条には75種類の改善面が示されており、文字に書くと150,000字
にもなる。これは大衆をいざりかけた指令である。

大躍進以後、技術革新が叫ばれた。しかし技術革命を叫ぶ場合、
70ヶ条ではめんどうな手続きを必要とさせている。——官僚的文書主義
経済の面では、コストの計算など、経理部の厚く認む必要とさせ、秀れた技
術革新の提案を押し退け表を飾らせた。

工作機械の修理も直すとも生産が上がるのに、改善するにはめんどう
な事務手続きを必要とする。それがめんどうなの、規則上不可な認識
があった。このようにして、70ヶ条を押し付けたことにより、労働者の創意が
枯れさせた。

国家から特殊製品の注文がきた場合、労働者と相談すれば、比較的早く
できるのに、事務的手続きのため、12の部門、40ヶの印を必要として70の
手続きが1日の、それだけ時間がかかると、それが使われる意味で、
電話番号124070と呼んでほしいとある。

新製品を作る場合、70ヶ条は外国のカンパニーを集めて試作させる。だから、
いつでも外国の後援を頼むという結果になる。

これは「人の後を回す人達」のゆえに、人の手をはかり、独創性が生かされな
い。

労働の監督、労働管理のみを党にあった。絶対的指導の下におこなわれた。
これはソ修主義の工場長権利を提唱したもので（一长制）
技術面では技師長が総ての権力
経済面では経理長
このことは、また改造工場というブルジョア、インテリの手に工場が渡ったが、その
掌中に握らるゝこととなる。この結果、党組織と工場長の関係は険悪化
した。

2. 政治を全面に出さない。

利潤主義、物質経済主義

工場の終局目的は生産を行ふことである。従つて工場は生産部門内であるとい
ふ。これは工場内の階級斗争の否定となる。

走資派の一人薄一波は曰く——生産がよければその工場は政治がよ
いといふことを証明している。このことは工場を単なる生産部門としがみている。

そして工場に対しては、年生産計画を示し、国家に納入する利潤を決定す
る。これはその生産工程を無視している。このことは資本主義利潤行為と同じ
こととなる。社会主義建設の必要による計画に基づいて決めるのが、社会主義の
特長である。だからただ利潤を上げることをのみ企てるようになる。

直接利潤を生じる場合——軍需、化学実験などもあるから、一概には言
えないが、

(無料の)

例えば、工場は修理にも使用できるが、ただの修理は利潤が他い。

従つて修理に嫌がるようになる。国家的観点からみれば、損失になる。

利潤主義は資本主義のものである。

従つて内部の团结を破壊している。労働管理の面から不合理が生じて
くる。利益の上昇によるのは、賃金が安くなる。生産物の種類によつても、利
潤の差が生ずる。生産量によつて決まらぬものもある。このように競争の矛盾が生ずる。
工場においても同様。出来高払制は生産の発展を阻害している。何故かと言
うと労働者は出来高制になると、生産を上げなくなるものだから。また、生産
工作機械を大事にしない。目前の利益のみを目を向けておこなわれる。

その中で最も悪質なのは、労働者意識——思想を根柢させてしまう。

自分の生活向上のみに目を向けるようになる。

獎勵制度による利潤追求は、政治の面での思想を忘らして、階級の国家、国
際プロレタリア運動その他を忘らしてしまう。生活のレベルアップだけが社会主義の観点
だといふ誤った認識をもつようになる。

出来高払は、例え人を殺しても血がみえない制度だと思ふようになる。

歩合給は基本給料の35%ぐらいだった。

3. 大衆運動に反対する。

人民だけが真の英雄であり、至上の創造主がそれである。

責任制度——人間を機械の奴隷と見做している。

元来大躍進のときに不合理な面を改善した。

70ヶ条には75種類の改善面が示されており、文字に書くと150,000字
にもなる。これは大衆をいざりかけた指令である。

例、大躍進以後、技術革新が叫ばれた。しかし技術革命をやる場合、
70ヶ条ではめんどうな手続きを必要とさせている。——官僚的文書主義
経済の面では、コストの計算など、経理部の承認を必要とさせ、秀れた技
術革新の提案を押しつけて発表させた。

例、工作機械の修理も直すと生産が上がるのに、改善するにはめんどう
な事務手続きを必要とする。それがめんどうなの、規則上不可なことを認め
ておいた。このようにして、70ヶ条を押しつけたことにより、労働者の創意が
生かされた。

国家から特殊製品の注文がきた場合、労働者と相談すれば比較的早く
できるのに、事務的手続きのため、12の部門、40ヶの印を必要として70の
手続きが1日の、それだけ17時間がかかる。それだけの意味で、

電話番号 124070 と呼んでほしいのである。

新製品を作る場合、わざわざ外国のカンパニーを集めて試作させる。だから、

いつも外国の後ばかり追いかける結果になる。

これは「人の後を四ツん這うが如く」人のまねばかりして独創性が生かされない。

このように70ヶ条の制度に制約されて、1961~4の試験の量は、1959年の1年間に及ばらぬようになった。

そこから经济管理、計画管理の面でも社会主義生産に転じた。反党、反社会主義があり、劉鄧のブルジョア路線である。今、起上ったことが是正に努めている。

この区内では3~4ヶ所が70ヶ条製の指示を付けた。

本工場には一連技術者がいた。

工場長責任制度 } 最初から好ましいと思われた。

出来高制 " } 大躍進のとき改善されたことが、再び復活した。そのもの？

67年8月30日の北京週報参照

「根本的に対立している二つの経済路線」

70ヶ条の問題に示されている。

白毛女 (淡劇)

700文革前と相違点

a. 地主は自殺したといふことになっていた。

→ 殺されたとした。

b. 彼女の恋人が積極的に八路軍に参加した。

← この報いが消極的であった。

26日 上海

A. 9. 華山医院訪問

P. 2 同濟大学

P. 7 和平飯店にて

上海市革命委員会常任委員 馮国柱氏と懇談会食

~~上海~~
(上海第一医学院附屬 華山医院)

解放前には全赤十字会第一病院 — 以来56年の歴史がある。

解放前はイギリス系政府に付いた医師、看護婦がほとんどで、100~200床、現在の600床、従業員720名

劉鄧路線の影響下にあつた。全管は一掃の突進にはついておらず奉任の方向は正されなかった。本来広汎な労働者に奉任すべきであるのに、そうならなかった。

斗争の結果、67.2月奪取し、4月三結合の臨時機構 — 華山医院臨時革命委員会を結成した。これは反動路線と打59めして奪取したこと、また完全徹底的に奉任の精神を發揮できるようにしたことである。

反修斗争として、等級制度 — 医師、看護婦 etc. をべて衛生員と稱した。

そしてその衛生員が農村へ行った。

農村へ制度上行く必要はなかった。

このように毛主席の元旦指示とありに文革に努力している。

使科 青年医師の談話

農村工作に於て

金中飽農民の治療もせよと毛主席が教えています。文革前はお利行かかった。安徽省へ20名、その他は上海市外へ行った。行った人はまずと地へ奉任したいと思つた。任務はまず衛生知識の普及です。その結果イタリと農民と結び、保守思想の啓蒙を図ることにあります。農家に泊り、共に一住、食、労する。農村の衛生保健網の整備に活動している。

農民は「人民公社はすばらしい。58年公社の完成以来農民の生活レベルもアップした。年収400~500元の収入があるようになった」と話した。

解放後、衛生工作の方向は左派な労働者へ奉仕するということにあったが、衛生院の方針は少数の人へ奉仕するという反动路線であった。

その人民公社には10名の衛生員がいたが、以前は病院が中心な所にあつたため緊急な場合などは困った。

人民公社の病院も衛生院の指示があり、設備も人も悪かった。

手術など完全にできなかった。今は盲腸、急性の伝染病などの処置もできるようになった。

毛主席の指示も大衆に宣伝し、保健思想の普及に努めた。生産大隊は

すくなくとも1人の衛生員を配置されている。農村が何何でも——語録、

食糧、医師も畑を持って中けるようになった。人民公社の衛生隊ができて、

上海の大都市病院へも中ける。農村では流行性腸炎がはやったのは、

これも時をうつつさすうずかすである。

金山県という所は血吸虫病の治療に方針が正しい。文革以前はあり

なまっていたが、今は糞便処理まで指導してくれる。治療、手術員

一切は国から出す。また我々も農村から学ぶことが多い。思想改造に大いに

役立った。

レントゲン科 医師の話

インテリと農民の結びつきについて

私は都市が育ち、上海の医学院を卒業し、この病院で10数年働いたが、その間

農村へ行ったことはなかった。以前毛主席の教を学習し、党の教育を受けた。

しかし農村へゆき始めて自分は農民と結合できなかったことに気がついた。そして実践

の中で始めて結合し奉仕するようになった。主観的思想改造——自分の思想改

造によって豊富な体験があった。

「解放された農民は足手は汚く牛糞がわいてるが、インテリよりはまいた」と

毛主席は言っている。以前自分はこのことについて十分得た。身に叩かれると思っ

た。

② 農村へ制度上行り始めた——行きてがらうたのが、

・ しい労働者下層は病院へ中けるのが、

・ 大都市での貧富の差別が大きいのが、

・ 都市は医療制度は充足しているのが、——特に農村に重きを置くのが、

しかし行ってみて始末？そのことが十分わかったことを認識した。そして始末？後等と

同様さかいらぬことを得た。

最初農民は汚いと思った。春の田の土起しに参加した。肥料をまいて耕す。

それ手洗に糞がつかって湿疹がでる。それは農民と生活と共にして思想改造

するの半分が、いかに汚いでもないが、不衛生だと思った。

夜農村のクラブで休憩したとき、老人に足が中けるのがあった。それ「肥料を

後に播くと生産が落ちる都市に奉仕できなくなる。」それが聞いて私は中馳しくなった。

物事が起きた場合、自分のことばかりに考へるのは立派な共産党員ではないと毛主席は

教えている。全くその通りだ。農民の方が偉いと思った。

貧農と共に生活し学んだ。しかし自分は医師として、自分の中馳しだけ考へていた

ことを恥しく思って、農民の中馳しを如何にして止めるかということを考へた。

この問題に關して自分は改訂された。しかし不衛生なことは幾度も繰り返して自分

を考へた。糞をかくことは汚い。或る日思い切って生産大隊にその作業に

行ってみた。自分が弱さの目撃者。隊長は他の楽な仕事を私に配分してくれ

うとした。しかし今日は手が汚くてもやろうと決意してまたのたがらうと思った。

この作業は手でやるのに道具が使えない。また化学肥料はダマシの。と聞いた。

農民は言った。「この肥料に生えるものはいい。又平均して播くには手が一番いい方法

だ」このことでも農民の自分の身の汚れを惧わずに、顧みないでやっていることに敬意

を表した。私も汚れてもまらなくなった。このやり方を通じて、「後等自身

は汚くない。しかし立派な精神を持っている。後等との労働を通じて自分を高めること

が得られる」と実感した。

「インテリは労働者と結合して始めて自己改造ができる。そして幾度もこの体験を重

て母が元に戻ろう」と思った。

華山醫院に對する反動に對する斗争

反動路線との斗争は激烈であった。20年前、毛主席は「農民は新段階に

於ける文化知識の對象である。農民3億6千万を離れれば、文化改造のことは考へられない。」と云っている。

- ② 専攻を深く研究するニは如何に履がなさいていふの事
- 40ヶ条は61年以降へ
- それ以前の土壌はどうか
- 看護婦、産婦人科には医師の替りはなかった

中国成立後、医協は、予材を主として医療を農民に向け、團結して衛生運動を大衆に結合せしめ、活動して衛生に注意し、疾病に気づき起す上は衛生を高めよと、又医療の重点を農村に向けよと、解放後毛主席の指示のようにした。

しかし、国民党は毛主席に抵抗し、走資派とくらんだ。
1952年、劉鄧の黒い路線から高等教育に南東80ヶ条と工業70ヶ条が出た。上海市は10ヶ条と制定した。この40ヶ条を通じて、イギリス、アメリカの医療制度を参考に、農村には25ヶ条、

病院にあり知識人の支配的地位を確立しようとした。これは一部知識人にこの病院を任せ、党組織はたゞ監督と指導とすべしと云った。

院務委員会（各科の代表から構成されたもの）による各科の長が責任を担うという制度であった。医師工作の活動はよくせず、等級の設定もなかった。

各等級の医師制度を作った。
主任医師、医師、看護婦の等級を決め、賃金の差も決めていた。資本主義制度から、

試験、昇給制、医師の24時間責任制をとり、若い医師と専門のムスビの病気が研究せしめ、一般の人と対象とした病気の研究はなかった。この路線が一部の者は賛成したが、大衆は反対した。この40ヶ条に対する闘争が文革の一つの焦点でもあった。そして革命的活動家は宣伝に力を入れた。

67、11月走資派から奪取した際、この40ヶ条に対しても一度ボイコットした。延安の文芸講話から、医療についての工作を学んだ。走資派が、頑固に40ヶ条を進めたことに対し、摘発と改正をやった。

この病院にあり知識人が、いかに人民に奉仕する闘争を進めたかを紹介したのです。院務委員会の中に産婦人科（100名）の代表は1人もなくて、知識人（医師）ばかりの集りで、産婦人科の発言することはなかった。

40ヶ条法を制定した。これは看護婦の若い者に対しては、見習試験制度をとり、医師に対しては、白専の道に推奨した。——本来は紅衛兵専攻家でありたいが、政治に無関心な人々を寄せた。試験では変な問題を出し、困らせた。

ex. アイスキヤデーのカロリーはどうかという問題。
青年医師活動家に対しては、患者を少くば歓迎させることや、試験のみを重視にあらず。

政治思想を学んだものに対しては困らせた。又労働出身の医師に対しては差別待遇をとりもした。労働出身は頭が悪い、若い医師は役に立たないといふようになった。160名の医師の中で、党員になったのは1人しかいない。

革命は大批判も起した。一に斗争、二に批判、三に改造をやった。まず、1/3の医師を農村地帯へ奉仕にやった。医師、看護婦、産婦人科の一体化を行った。医師は従来の気どりをすて、——産婦や看護の仕事をやるようになった。——検査、手術、診断の過程も看護婦は参加できるようになった。

内科は薬の処方箋も作るようになり、産婦も看護婦の仕事が同じようになった。このように身分的三等の差はなくなってきた。

階級制立場の学習も深まり、迷信を打破して、技術的にも向上した。従来はブルジョア医師が手術を独占していたが、今は若い医師も参加できるようになった。そして卒業して2-3年の若い医師も、管理も指導もができるようになった。

以前、有名な医師は3つ（心臓、ムスビ）の専門的研究していたが、一般のムスビもできるようになった。各科の分科制をなくした。——各科は互いの診療を止めて総合的にした。

また、医師工作者が体力労働者と同じになったので、農村でも同じようになった。患者の洗眼、タオルを手洗して、それから診断を始めるようになった。患者の中の貧乏層の人に学ぶ、毛思想を信じてやる。医師は、胸は痛棟にあるが、心は母界にある。奇蹟革命のために患者を治してやるのだ、と思ふようになった。

政治的に反動的な彼等は徹底的に打倒し、批判する。一般の高級知識人に対しては熱心に思想改造を進め、彼等の思想改造を助ける。

各科各グループを中心として、学習グループが今では3つある。1/3が農村に行つたので、人不足になったが、それ以前に増えかへして、この文革を通じて「大海をゆくには舟を頼る」という真理を身に付けました。偉大な毛思想を身に付けました。

華山医院	医師 154人	外來患者	600床は満足
	看護婦 236	67年 1日 1,900人	
	産婦人科 146	革新外來（貧乏人）を特設したので一層増えた。	
	車員 96		
	技術員 90		
	計 51700人	上海市には	120病院 30,000床

〔同済大学〕

— 教育革命の情状に於て

建築、工学専攻、総合大学

学生数 5,000 ~ 8,000

教職員 2,000

工学部

- ・都市建設
- ・地下建設工程
- ・建築工程
- ・建築材料
- ・建築—配置
- ・道路、橋梁、トンネル
- ・数学、物理、力学
- ・建築機械、電気設備

〔若手の講師級の教員の話〕

社会主義改造が完了した後にもニツの路線の斗いはある。思想の改造は長期向かへて始めて革命ができる。教育という障礙地はブルジョア最後の基地である。

ブルジョア知識人も多い。修正主義の思想もニツ教育者あり。また次の年代を育てる任務のありようもある。従ってブルジョアと党にもニツの「実権」は、この領域に守られていた。毛主席の革命路線に對抗して修正主義路線をと踏み、学生をブルジョア復活の道具にしようとした。教育の場での斗争は厳しかった。

毛主席はこう教えた。— 毛語録 p.226 教育に携わること

このことが最も重要だ。それは誰に権力を奪取しようかというニツが、総ての向題と決定するところだ。この奥に斗争は始まった。事業はソ連の党が指導するが、大学はニツの手に握られて毛主席は教えた。

1. 党の指導 2. 革命的教師、学生、労働者に頼るべきだ。 3. —

反動派はこの指示に對抗した。ブルジョアの权威者が学校を運営しようとした。

指導と専断をだと思つたから。文章前はブルジョア教授、助教に握られていた校務委員会があった。

— 71名のうち 41名はブルジョアであった。 —

8つの学部の主任と教務研究室を大部分を占めていた。彼等は思想改造をうけた。思想が生活形式で社会主義と合致しなく、実際の学問の能をもつていない。

党内の走資派は宝ものように大事に遇っていた。そして党員にも入る一一部の者には党務にも当らせていた。ソ連の集会的なスタイルもあって、赤いマントを着ていたから人々を感服させる力もつた。見た所党代表し、党を指導しているようにみえた。

実際には一連の修正主義の路線であった。赤旗にあげ赤旗に反対して来た。

毛主席の指示に対しては、我々と封鎖し表面だけ従つていようとしていた。また伝達すべき歪曲したり、精神と抜いて伝達した。指示の後具体案をだして向題をたもた。

こういうものは見破ることは困難だ。インテリ交配をうけた。修正主義の教育路線は歩んだ。どのような次代の担い手を養成するか、このニツはニツの路線の中核にこの向題だ。徳、智、体と名づけた社会主義 — ソ連のソ連の後継者教育をねらふ。

その労働の子弟を入るようにならなければならぬ。この毛主席の指示にやむを得ず排斥した。例、建築学部は主要な学部なのに、試験と分けると、卒業のふた外に論文を書くのが上手というのが条件だった。労働の子弟は下手である……忙いから、比率からいって本部は一番すくない。

入学にも中退するおにさせた。ブルジョアの子弟に対しては面倒をみた。また養成の目標は「精神貴族であり、ブルジョアの専断思想 — 他人より一歩上だ」という普通の労働者にもなるとはなして、ある教授は云った。「建築士に養成する。建築のタクトホリにするのだ。また芸術を学べ、生活を知ら、生活を享受するべきである。建築物を一つ造ることは自分のために一つの記念碑を建てたようなものだ。」

人民に奉仕する精神を教えた。教科書に於ても毛主席の指示に一貫して對抗して来た。学生に押し、古、修正も注ぎ込んだ。授業をせよめと、外国のニツばかり云つて来た。西洋のもの、古代のものを偉大なものにして社会主義のもの、労働が必要というものは必要ないとなった。大量のソ連哲学が存在していた。

オットホの学問があった。

例、空間原理 — 建築学^ト空間 / アバウト解決するモデル。

この視察から論じていた。例、この内は空間のある構成部分 — ニツの選んだ空間を造るものだ。遮断し、分けたを以て連結をもつた部品だ。ソ連哲学を使つてむすかしく云った。馬鹿げたことだ。

教育の制度を延長した。5年制、建築学部では6年制に延長した。こういった学生は実際から、労働に脱離していった。最も大事なのはブルジョアの腐蝕をうけたある学生は自分の別荘を設計した。下層のものにニツの悪影響をうけた。悪くなったのが。例、ある学生は母親が息子に会うため農村から来たとき、~~その~~身なりが

大変複雑にしていたのが、大学生の身分とよくわかる、それが「自分の母親だ」と云わず、近所の者だと稱した。彼らの子弟は入学したとき自分のものだが、出てくるとブルジョアのものを「と云う。これは意味深重なことです。

この様子を続けると10数年して変質して修正主義が復活する惧れがある。10数年果敢闘争を展開してきた。数回となく革命運動をやった。しかし走資派が権力を握ったから運動が止った後で毎回の運動の行きすぎを挙げて批判した。高等教育の60ヶ条はこの典形です。文革前はブルジョアが学校を支配していた。状況は解放前と幾つも変わっていった。これは改革前に権力を奪取する必要がある。もしやったらしても元の道に引戻さないとしよう。

1966.5.7 毛主席は指示を出し呼びかけた。——「学制は短縮すべきだ。学校は改革すべきだ。もうブルジョアの支配を続けたりはイヤだ。」

5.16 通知で、700文革の旗を掲げ文化の指導権を確立するように。そしてさまざまな勢いの文革が大学で起った。

大革命の第一の集中目標は奪権闘争であった。教室の中に内戦も起すものと許さなかった。1年間の授業を止めて闘争を行った。1年余の衝突の後、67.6 革命委員会を作った。権力の向題を解決すには「具体的に改革に着手する必要がある。」

67.7.1 から授業を回復して着手した。組織の上で、政治、思想、___?の面をやつていく。ブルジョア支配を徹底的に打ちのめしてしまつた。そして毛主席の700教育思想を貫徹し実行する全く新しい教育制度を樹立する。大批判の面を築いた。それが5.7公社 Commune です。

文革で掲げた教育内容その他はブルジョアの思想にマツケしてはいけません。社会主義の国家で、700革命の後継者であることは当然です。自分が自覚をもった勤労者となる必要があります。古い教育体制は一致してのものがあつた。その替り新しい教育内容、方針、体制を樹立しなければならぬ。新しい学校体制が新しい任務になります。2年から1年間の闘争を通じ、革命委員会が成立して以来新しい改革に当たります。この活動が始めた時、向題に示された。前人がやったことの「これは、如何にして新路を見出すか。これは毛思想を継ぎ返し深く学ぶ必要があつた。

まず学校の中が毛著作の学習を系統的に学んだ。——それは労働の中にはいつか問題研究をした。また過去に於て各級したことを参考にした。これを基礎として、67夏に新しい制度の立案を行った。——学校を5.7 Commune にするといふ案です。

(人民日報 12.3 発表、北京週報に引いた)

5.7 には66年5月7日に毛主席が林副主席に宛てた教育の綱要の指導の手紙が示す。学生は学业を主として併せて他のものを学ぶ。工、農、軍から学ぶ。これ以上ブルジョアが学校を支配するのを許さないと手紙を基にしたからです。

- Commune
1. 教学の体制
 2. 教学の内容
 3. ; 方法
- と改革する。

I. 教学の体制

文革前の体制はブルジョアにあった。教育は階級闘争を激化させ、卒業生を精神貴族とさせた。教育は社会の生産労働と適合せねばならぬ。こゝに思想に基づいて二つの三原則を規定した。

1. 生産の実践の中に入らざる。社会設計部門と一体化させること。
2. 指導機構のメンバーは革命指導幹部、民兵、大衆組織の責任者をつくる。

学校全体が公社になり、一人は教育を指導する。革命的學生、職員、教授は指導に参加できる。教育が生産と結びつくことが出来る。この体制をとり知識人の労働化、労働者の知識化に有利にする

II. 教学の内容

養成目的、その学生は革命家に育てねばならぬ。政治方向を正して先ず第一に党員とすること。もしその「魂」を「魂」に似たものと同様だ。——毛主席は教える。

思想面でも著作を学習し、身につけておかなければならぬ。学校の中が毛思想と活字活字利用することを目標とする。同時に他の課目——専攻の科目を専攻に当ても毛思想を指針とせねばならぬ。

学生の按配とも以前と変つた。以前は理論が実践であった。こゝにこれは人間の思想の発展の法則に反するに過ぎず。何れに自分も勉強するの必要が自覚して、認識の発展の法則に反するに過ぎず。何れに自分が勉強するの必要が自覚して、認識の発展の法則に反するに過ぎず。実践が認識へ、認識が実践へと続く。——毛主席

Q. 現在の中国のソビエト化の進捗はどうか。
 ・新しい三年制は全学同じか。

大変の教える。 40. 家庭と作らぬ、生産の労働に参加させ、認識もつものにさせる。 20の生産労働を通じて、学生は理解もする、問題も見出すことが出来る。 20の問題を以て学習の方向に指導する。 一定の理論、知識を身につけてから設計に参加させる。 最後に自分の設計したものを作らせてみる。 どうやって作るか自分で認識させる。 受身から指導的になり、実際の生産にもたずさわったから、スカラーとしてのバカらしさが分り、少額積銭でまよふにや。 目的は学びが主。 実験室にいる学生は新しい教育体制の下では実践が主、生産活動、化学研究の活動にも参加するようになる。

又我々は学校の中に於ける教育関係の構想もこうなつた。 以前は教師は教えることに専らなつたが、今はお互いに教へ合うという方針もつた。 実際には、学生も各労働者にもつたことが主になる。

年限も変へる。 各学部で検討して、5〜6年で卒業するものも3年とした。 教育研究を重視して、立案と高めの変へる中がわづらぬと思つた。

もっと重要なことは、立案と試練の中にあること。 67. 10月以來、広汎な労働、大衆が支持している。 今のところはこの体系が向は正しく比較的よいものといふことが出来る。 毛主席の教育指導の下で努力を続け、今後の困難な改革をやりぬく決意です。

65年度	新入生のうち	労働出身者	70%
	全学		51%

革命委員会
 委員 45名 革命的學生代表 25名
 指導幹部・教授 20名
 主任 24支の学生
 (上海市革命委員会常務委員)

エロ
 (馮 国柱 (上海革命委員会常務委員) 代談話)
 上海人民外語学院理事
 延安期からの余士
 和平飯店にて、親迎会食の夕食。 食後の談話 P. 7時から

階級斗争の場面に於いて激烈になる。 走資派の再論準備だけなら、大衆の力を握る。 文革は先ずイデオロギーから奪取へ進んだ。 即ちソビエトの手には権力を奪い取つた。 大連合の後、三結合、斗私批修を行つた。 自己革命で毛思想で自分を高めなければならぬ。 二つはつまり光榮である。

イデオロギーから始まり、経済、組織へと進み、又イデオロギーの思想改造に帰結する。 即ち根本的に思想革命をやらなければならぬ。 これが文化大革命の革命といふわけだ。

これは従つて大衆を動員してやらなければならぬ。 もしそうしなければ、我々の周囲にモグリンがいて走資派をさみだすことは出来る。 その他党内に新しい意見、——ウラ切り者、特務が紛れこんでいた。 彼等は走資派の庇護の下にモグリンでいた。 過去に於いて国民党に同志や自己の魂を売り渡して来た。 またこれらのうちある者は、任務をあたへ党内にモグリンでいた者もいます。

大衆を動員するのには、この輩は中を揺りおさすものではないからです。 それと同時に一人一人が毛思想で武装せよとやらせぬ。 即ち人間の思想革命をせよとやらぬ。 修正主義の基礎を我国からなくしてしまふことです。 一度や二度はダメです。 長期にわたつて文革は必要らしい。 人々の思想、自覚は今回飛躍をみせました。 今度完全にしろ、限りは、明日又一部の修正主義が生かす可能性があるからです。 しかも今回完全にやつたからもう一度とやういふ保障はない。 必ずソビエトの路線は生じてくる。 階級に対する階級斗争、二つの道に対する斗争を行つた。 ソビエトの悔い戦士がたつた。 クラウソンの星の色も変へた。 二つから我々は大衆の教育を受けた。 毛の文革がなつたら、疑なく中国でもソビエトと同じ道を運命に完全になつた。 中国の前途の運命にかかわるだけなら、国際的にも世界ソビエトの運命と前途の問題でもあります。 すべて修正主義の道を歩んでいたら、一体どうなるかといふことが出来る。 これが劉少奇が中国のソビエト化といふわけだ。 これはソビエト化といふことだ。

27日 上海

A.9 上海東方紅音3電器=廠 訪向
P.2.30 上海東方紅映画撮影所(天馬撮影所) 訪向

市外見学の要約

(上海東方紅音3電器=廠)

(盲人作業員の話)

ラジオの電器具製造、他に上海市域には13ヶ所という工場がある。
 設立 1952年(大躍進の年)
 当時従業員11名、製品の機械、下請のみ
 以来9年間で発展
 現在 320名 — 盲100名、3音100名、肢体不具30名、健康者70名
 従業員給料 賃金最高75円 平均27円 (反動路線の結果だった利潤優先)
 一つの製品と完成できる、輸出品もたくさん。
 毛思想の成果、こういった施設は社会主義の下での新しいものである。
 生産、科学実験、階級斗争、1960年技術革新をした。
 1960年はフルシチョフが技術者31名を上げさせた年、自然災害のときもあつたが自力で修正した。当時材料はよく苦心して作った、すべて労働者の創意が行った。
 この工場には技術的側面だけでなく、政治意識も変化した。
 人が大と喰う社会 — 資本主義社会 — では健康なものを食べることができず、不健康にありあや、古い師、コジキ、売舞しかなかった。
 従って解放後この工場にきたとき、感動したが、果して労働者に与えられる不安の惧れもあつた。
 (困難はそれ以上に分析し克服するしかない) — 毛はそう。
 「愚公山を移す」の精神が行った。この小さな機械自身にかけがえのない決意と実践した。機械はハリコノ虎だ、死んちものね、人間は生きものである。
 しかしまた機械は^{科学}の虎でもある。 — 指を喰うはともある。
 教略的には、ハリコノ虎とて、教術的には慎重に虎に討ちた。

大: 毛の斗争の目的は、決して人間対人間、派閥対派閥の闘いではない。
 者: 金古春の命運にかかわる問題だと思つてます。
 二: 社会主義が逆戻りした例は不幸なことです。 — ソ連、ユーゴ、東欧の一部国家
 二: しかし社会主義が安寧主義に正しく移行した例はまだない。
 一〇: 毛主席は、この問題にこそ理論的だが「で」から「実際に」行く見通しを込めて
 一〇: 毛主席が偉大であり、マ・レ・主義の第三の創造といわれる所以は、社会主義の中の革
 高: 命の正と説明したことにあつたと思つてます。
 一〇: それで派閥性などというものは、ハナガタのことです。しかし修正主義は完全に中国の文革の
 一〇: 意義を理解している。彼等の危険を感じておられます。
 道: その他の誇り — 古代文明、歴史の存在…… — これらは今更に上げるべきでもない。
 一〇: 古の歴史は、毛主席の教にあまり批判的ではなからぬ。政學したのには、封建資本
 一〇: 主義のしるものです。
 一〇: 毛、漢朝にこの帝王の出現は、衝撃を与えて流れて然るべきものですね。
 一〇: 文藝にこの、死んちもの、亡びたものが舞台上に充満していた。これは巧みでせよ
 一〇: 大はそれです。毛、宋朝は安はそれですが、これに現代の風を吹きこめ
 一〇: のです。 — 毛は古のものを発展し、生命をもつ。これが本当の継承です。
 一〇: 毛、バレーにこのも同様です。つまり文藝を通じて大衆を動員し敵に衝撃を与え
 一〇: 一〇: 毛、古代の文化、遺物にはこれを批判的に取扱い、生かして活かしているのです。
 一〇: 以前は走資派はこのまじなものに許さず、青年を毒し、走資への道を開いたのです。
 一〇: このまじもこの文革斗争がなければならぬものではないか。
 一〇: 教育にこのも同様です。
 一〇: 制度、内容、方針にこのも全く同様であつたのです。毛、学制6.3.3.4の肉、学生は
 一〇: 社会から離脱して、資本主義社会が書物や学問で学問はほとんどは毛のせいだ。
 一〇: ソ連も毛のせいだ。中国も毛のせいだ。 — 毛は我々の後進者をいかにして前
 一〇: 進にたつてくる。 — 毛の担い手、精神貴族を育成するに毛のせいだ。
 一〇: この教育も文革によって行われなければならぬのです。従って文革の内容は高く深
 一〇: 味もつてくるのです。
 一〇: 毛主席は偉大で、それが健康であつた。 — この意味で外国の友人は文革を理解して
 一〇: いる。